

園長だより 「私と小鳥と鈴と」 第8号

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。

私がかつらだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

教科書にも掲載されている金子みすゞさんの有名な詩ですね。皆さんもよくご存じだと思います。「あなたはあなたのままでいいんだよ」という金子みすゞさんの温かいまなざしで書かれた作品です。あなたも私もこの世に生まれてきたことそのものが素晴らしいということですね。私たちは一人一人が違うから生まれ、一人一人が違うから存在するということです。

この詩を改めて読んでいただいて「おや？」と思われた保護者の方も多いのではありませんか。そうです。最後から二行目です。題名のまま「私と小鳥と鈴と」としないで「鈴と、小鳥と、それから私、」に変えているということですね。ここに金子みすゞさんの真意があるように思います。最後に「私」を持ってきました。「私とあなた」ではなく、「あなたと私」という考え方がベースにあるからこそ、最後の最も有名なフレーズ「みんなちがって、みんないい。」がさらに輝きを増し、崇高なものになってくるのです。

子どもは本来、自分本位です。最初は「私」だけです。個人差はありますが、子ども達が色々な経験をしながら成長していく中で周りが見えてくると「私とあなた」の段階になります。これだけでも十分な成長です。ただ、この期間は結構長く続きます。中学生や高校生になっても「私とあなた」から脱却できないこともあります。私がそんな一人だったように思います。遅ればせながら「あなたと私」という考え方ができるようになったのは、大学生の頃に取り組んでいた「大阪市立六甲青少年の家」（残念ながら閉所されました）でのボランティア活動がきっかけだったように思います。

お子さんがいつ自分本位の「私」から周りを視野に入れる「私とあなた」に成長することができるのか。そして「あなたと私」に成長することができるのか。いずれにしてもその成長には保護者の皆さんの働きかけが大きな影響を与えるのは間違いありません。